

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営 1. 理念と共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	指定申請時に作成したケア理念を利用者の現状に合わせ、全職員で話し合い作り変えている。		職員の異動、利用者の状況変化、重度化対応などが重なり、もう一度職員間で協議したい
2 理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念が実現できるようプランを作成し日々実践している。		
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	玄関等に提示しているほか、家族には毎年新年度家族会総会において年度事業計画を説明し、計画書にはケア理念を載せている。また地域では管理者がボランティア団体等に講演するなどしている。地域行事にグループホームでの年間活動をスライドに上映して、日常生活の中で制作した作品を町の文化祭に展示して沢山の方に見てもらっている。		
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	近所の方からいつもさわやかな挨拶をしてくれると言われている。畑おこし等は自主的に協力してもらっている。生け花や折り紙を自主的に教えに来てくれる。		
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会に入会し、町内会行事や町内清掃等に参加し、回覧板なども利用者と一緒に届けている。また清水町内のイベント等への参加、地元高校との交流など積極的に行っている。		
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	認知症新聞の発行や認知症をテーマにした紙芝居の作成・公演		地域に対してグループホームが地域資源であり、職員は地域福祉の視点を持って福祉向上に努めるという意識不足と余裕のなさを感じる。今後の課題として職員の地域福祉についての意識向上に取り組む必要がある。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		職員のための学ぶ機会を今後検討していく。
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	外出・外食等はもちろん行事の立案や行事の反省は必ず利用者意見を反映させている。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	基本的には、金銭管理は収支状況を毎月事務より送付し、利用者の状況は担当職員より毎月手紙を書いて報告し、施設の状況は管理者が毎月ニュースを発行している。その他個々の状況にあわせ随時報告をしている。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	行事等を利用したアンケートや玄関に意見箱を常設している		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	いろいろな企画等は職員からの発案をもとに実施している。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	突然の本人希望の外出や不安定な精神状態に対応するための外出などに柔軟に対応している。夕食後の入浴が定着すると職員側から勤務時間の変更を提案することがあった		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	ケース担当が変更する場合、ケース引継書により利用者へのサービスの継続は保っている。また今年度より一部センター方式の様式を使い、利用者の情報をより明確化した。		利用者へのダメージを防ぐ対応はしているが、今年度は職員の異動が多かった反省から、今後の職員動向をよりの確におさえる努力が必要。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>		<p>現況の介護保険制度における介護職員の置かれている状況では職員のストレスを解消することは難しい。今後関係団体等に現状を訴え協力し職員の地位向上等に努めた</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時、まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。」	併設の居宅介護支援事業所や居宅サービス事業所などと連携し、相談されたときが一番助けが必要との意識を持ち対応している。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	居室には馴染みのものを最初からそろえるのではなく、本人や家族と相談しながら少しずつ現在の形になった。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	その人らしく生活してもらうため、日常生活場面の炊事、味付け、畑管理、手芸など職員が教わる場面は演出しなくても自然と多い。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	行事参加やご本人の誕生日等にはご家族も含め企画している。日頃の様子を家族へ伝える工夫(手紙、ニュース、面会時対話)をし、例え生活を共にしていなくても、ご本人が楽しまれている様子を理解していただくようにしている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	本人と家族とのこれまでの歴史や関係を理解できるよう努めた上での協力要請や関係を尊重して上での係わりをプランや外出企画に活かしている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	パーマ屋・医療機関・信仰など馴染みの関係が継続することを大切にしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者の性格等により孤立してしまう方に対しては職員が意識的に集団や他の利用者との関係構築に努めている		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	契約が終了したケースがまだ無い		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	モニタ、アセス等により把握検討に努めている。今年度より一部センター方式の様式の活用により、今まで以上に把握できるようになっている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	同上		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	同上		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している。	本人の想い等を実現するためにいろいろな視点からの意見や多くの工夫が常に必要であり職員全体でのアセスやモニタを実施しプランの作成、変更を行っている。またプランを実行するための職員周知も同時にできている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	病状の変化や状況の変化に即しタイムリーに変更する意識を常に持っている		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	記録の重要性は全職員に浸透しているため、記録量としては問題ない。		量だけでなくプランに沿った記録の取り方など課題として今後職員間で研修等実施したい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	一事業所の多機能性だけでなく、必要に応じ併設している他サービスと協力して支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	民生委員やボラに対しては職員が講師となる講演や見学、消防には救急法等の講師を依頼し、災害時等の防災計画を毎年協議作成している。教育機関とは継続的な係りを維持している。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	併設本体施設の特養が行っているサークル活動や文化活動には自由に参加できる体制となっているためデイサービス同様のサービスを確保し、また特養看護師が兼務として配置しているため訪問看護同様のサービスが確保できている		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターに対し運営協議会に職員を派遣している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	かかりつけ医が看護師と共に最低2週間に1度は来られ、健康管理等の支援を受けている。また休日・夜間は医師の携帯電話に直接電話できる体制および状況に応じ往診体制を整えている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	月2回認知症専門医に直接来て頂き、職員の相談や利用者の治療等を実施している。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	併設本体施設(特養)の看護師が兼務し健康管理等の支援をしているほか、かかりつけ医の医療機関からも看護師等の訪問・相談を受けることができる体制となっている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院による環境変化からの混乱や認知症の進行を防止するため、入院者への職員のかかわりを提供し、医療機関と連携し早期退院および退院後の連携に努めている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	「なじみの介護スタッフと家族によるラストステージケア」という名の重度化・終末期の指針を作り全家族から同意を得ている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度化・終末期に対応するケアには医療機関や医師、更に家族の係わりが絶対条件として指針を作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	グループホームからの住み替えの例はない。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	身体拘束監視委員会を通じ、「ちょっと待ってね」という声掛けを減らす事を上半期の目標にすえて実践している。また急な立ち上がりの際などに「危ない！」等の強制・制止するような言葉をなくそうという目標が出され取り組みを開始した。		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	毎日の生活の中から本人の思いを聞いたり、読み取ったりし、個々に合わせた自己決定による生活支援を行っている。		
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	馴染みの生活習慣を尊重し、個々の希望や状態に合わせ、その人らしいペースでの生活支援を行っている。希望があれば、急な個別外出にも対応している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	外出や状況に合わせた身だしなみに心がけ、美容室はサービス開始前の店を継続的に行くように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	毎日の食材買い物、準備、調理、片付けをその人の状況に合わせた役割を提供し、個々の好みも把握し、その都度個々にあったメニューにしている。		
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	グループホームから毎日提供しているおやつのほか、家族の了解の上、本人と共に買い物に行き、嗜好品おやつを購入している。おやつ等の摂取時間や量も個々にあわせて支援している。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個々の排泄状況の把握に努めると共に、自然排便を促す工夫を実施している。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴の時間や曜日を固定せず、基本的には夕食後、本人の希望や清潔維持の観点からの声掛けのもと実施している。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	消灯起床時間や入浴日入浴時間などを決めず、一人一人の状況に合わせている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	畑、生け花、編み物、調理などのほかにも、日常生活上の多くの場面で一人一人の能力やこれまでの経験を活かせるような支援をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	毎日の食品等の買い物は町内ほとんどの商店で掛買いができる体制となっているが、個人の嗜好品などはそれぞれの状況に合わせた支払が出来るよう支援している。		
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天候や一人一人の体調に応じてやがいで散歩、日光浴、畑、花壇、外出などに対応している。また毎日買い物は職員と利用者で実施している。		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	外食や外出などは毎月必ず企画している。企画を可能にするため併設本体施設からのバックアップを得ることができる体制となっている。		
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	家族の本人の希望に沿って電話を利用できる環境を整えている。本人の能力に応じ発着信や手紙の援助を行っている。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	各個室は広くとっており、家族が他者を気にせず面会できる。また居間、食堂でも家族と本人の空間が取ることができるようし、家族との時間を大切に出来るよう配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないという意識を全職員が持っている。身体拘束11か条のほかに制止となるような声掛けやちょっとまってねなども使わないような取り組みを展開中		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関の鍵は全員での外出中以外、日中掛けた事は無い。居室の鍵を職員がかけることも無い。		
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	室内は台所が中心となった造りで利用者の所在や居室への出入りが常に確認できる造りとなっている		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	しっかりアセス、モニタ等を実施し、利用者の個々の状況に合わせた個別事故対策を実施している。事故対策委員会ではヒヤリハットの検証だけでなく、他チーム委員から事故の可能性についての事故の種に成り得る事についても検証している。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	併設本体施設と合同で事故防止委員会を設置し、各種事故防止マニュアルを作成し、更に利用者個々の事故防止マニュアルも随時見直しをかけている。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	職員を対象に心肺蘇生法の講習およびAEDの講習を実施している。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防等と協議し、避難手順等を毎年確認している。併設本体施設との協力体制もある		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	職員の工夫等による抑圧感のないリスク対処方法について家族の同意の上プラン等に載せている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日のバイタルチェックや様子観察から変化や異常の早期発見に努めている。その情報の共有はもちろん、看護師に常に相談できる体制となっている。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	アセス、モニタ等で毎回投薬内容を確認し、理解できるよう努めている。投薬変更時等は看護師より様子観察などの指示が出る。		臨時薬や投薬変更時にその薬の副作用等の知識不足の面があると感じる。何人かの職員から薬についての知識向上を目的とした講習会の希望があり、検討する
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	個々の排便量を確認し、個々に水分量、運動、食物繊維の摂取等、自然排便を促す努力をしている。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	一人一人の状況に応じ口腔衛生に努める支援をしている。		口腔清潔のための口腔ケアと位置づけたが、経口摂取を維持するための積極的な係わりの必要性を職員が認識する必要がある
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分量チェック表を活用し水分量の把握に努めている。食事量については毎食チェックする体制になっている。実施献立について管理栄養士のアドバイスを受けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	併設本体施設合同で感染防止委員会を設置し、マニュアルの作成、周知に努め、また新職員に対しての講習会を実施している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	感染防止委員会のマニュアルのほかに現況での台所・調理・消毒等の細かな対応方法を明確にしている。食材については毎日買い物に行く事を日課として新鮮な食材使用に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関内については飾り付けや掲示物を親しみやすくする工夫がされている。玄関までのアプローチについては花壇を作ったり、プランターを並べるなど工夫をしている。		建物周辺に対しての職員の意識が弱く、外回りも含めた環境で、入居者にとってより活動な環境を提供できるように意識したい
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居間食堂は間接照明とし、また台所がオープンキッチンとなっていて調理の様子や料理の匂いが生活感を漂わせ、居間から見える畑の様子や日高山脈の山並により季節感を理解できるような環境を提供している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	スペース的に十分な広さがある居間・食堂にはいくつもの場面を設定した居場所があり、個々の状況に合わせ利用者自身が選択しつくりで過ごせる。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家族や本人と相談し、なじみの家具や生活用品を整えた居室環境となっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	臭いについては設備的にはオゾンによる空気消臭システムやガラス面を光触媒加工を施工するなどにより臭い対策をしている。また冷暖房の調整だけでなく、自然の風や換気を状況に合わせて行っている。インフルエンザ対策として全居室に加湿器を設置している。		夏は30度を超え、冬はマイナス20度より下がるこの地で外気との差がないようにはできないでしょう
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	機能低下防止や維持の観点を大切にし、一人一人の現状に合わせた居室空間やベットサイド等も常に検討している。		
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	認知度や理解度の違いを理解し、一人一人にあった役割や活動を援助するよう努めている。		
87 建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ベランダから畑や温室への移動がしやすく、また玄関周辺にも花壇やプランターでの花きを栽培し楽しめるよう工夫している		建物周辺に対しての職員の意識が弱く、外回りも含めた環境で、入居者にとってよりベターな活動を提供できるように意識したい

サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない

サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働けている</p> <p>ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)常に利用者の現況を職員全員で把握し、個々に合わせたケアの提供できるよう努めている。また開所以来利用者の異動が無く経過しているが、今後予想される更なる重度化に対応できる職員スキルを確立したい。